

資料提供

令和5年5月12日（金）
照会先：保健医療部感染症対策課 疫学G
担当者：課長補佐 大芦
連絡先：029-301-3233（内線：3280）

東京都の麻しん（はしか）患者の発生について

5月10日・5月11日、東京都において、4月28日に本県で発表した麻しん患者と同一の新幹線に乗車していた方の、麻しん陽性が確定しました。患者は現在入院中です。

患者の行動や接触者について、東京都内の保健所が調査したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、不特定多数の人が利用する施設を利用していたことが判明しました。

発熱・発疹等、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に最寄りの保健所に電話連絡の上、保健所の指示に従い医療機関を受診してください。また、受診の際は、周囲の方への感染を広げないように、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

※麻しんの潜伏期間は、約10～12日間（最大21日間）で、麻しん患者と接触した場合には、接触後3週間（21日間）注意が必要です。

※ 接触早期には、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もありますので、医療機関にご相談ください。

【患者の概要】

詳細は（別添）東京都の報道提供資料のとおりです。ご参照ください。

患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

【茨城県感染症情報センターホームページURL】

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

○ 麻しん（はしか）とは

原因：麻しんウイルス

潜伏期間：約10～12日間（最大21日間）

症状：感染すると、約10日後に38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱と共に発疹が出現すると言われている。

治療：特異的な治療法はなく、対症療法。

感染経路：空気感染、飛沫感染、接触感染で感染力は非常に強いと言われている。

感染症法：五類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出ることになっている）

予防方法：ワクチン接種

抗体保有率：十分な免疫が獲得されていれば発症が予防されると言われている。本県の抗体保有率は2020年の調査で93.5%。

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 麻しんは、有効な治療方法がなく、予防する唯一の手段はワクチン接種です。
麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていないお子さんは、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
また、麻しんに未罹患であり、かつ、麻しんの予防接種を2回接種していない方は、予防接種を受けましょう。

2 症状から麻しんが疑われる場合、必ず事前に保健所に連絡のうえ、保健所の指示に従って医療機関を受診してください。受診の際は、周囲の方へ感染させないように、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

また、麻しんにかかった（検査で診断された）ことがない方が海外渡航する時には、渡航先の流行状況を確認するとともに、麻しんの予防接種歴を確認し、2回接種していない場合、又は接種既往が不明の場合には予防接種を受けることをおすすめします。

○ 医療機関の皆様へ

発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認等、麻しんの発生を意識した診療を行うとともに、臨床症状等から麻しんと診断した場合には、速やかに保健所に届出をお願いします。

また、患者（疑い含む）は個室管理を行う等、麻しんの感染力の強さを踏まえた院内感染対策の実施についても併せてお願いいたします。

【参考】

麻しん患者発生状況

（単位：人）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
茨城県	3	17	0	0	0	1

《県内保健所連絡先》

中央保健所 : 029-241-0100
ひたちなか保健所 : 029-265-5515
日立保健所 : 0294-22-4188
潮来保健所 : 0299-66-2114
竜ヶ崎保健所 : 0297-62-2161

土浦保健所 : 029-821-5342
つくば保健所 : 029-851-9287
筑西保健所 : 0296-24-3911
古河保健所 : 0280-32-3021
水戸市保健所 : 029-350-7650
(8:30~17:15)

麻しん（はしか）患者の発生について

都内の医療機関を受診していた以下の方について、検査の結果、麻しん（はしか）の陽性が確定しました。

【患者の概要】

No.	性別	年齢	症状	ワクチン接種歴	発病年月日	発生届出年月日
1	女性	30代	発熱・発疹・咳	なし	5月3日	5月10日
2	男性	40代	発熱・発疹・咳	不明	5月3日	5月11日

※ 当該患者は現在入院中です。保健所において疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。

※ 患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

患者の疫学調査を実施したところ、令和5年4月28日に茨城県において報道発表を行った麻しん患者との接触歴（同じ公共交通機関を利用）が確認されました。

また、周囲に感染させる可能性のある時期に、不特定多数の人が利用する施設を利用していたことが判明しました。

【共通して利用した公共交通機関及びその区間】

4月23日（日） 東海道・山陽新幹線 のぞみ50号 9号車（グリーン車）
（新神戸駅18：52発⇒東京駅21：33着）

（参考）茨城県報道発表

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yobo/kiki/yobo/kansen/idwr/press/documents/mashin.pdf>

【感染性を有する期間に患者が利用、不特定多数の方と接触した可能性のある公共交通機関】

5月4日（木） 東海道新幹線 こだま740号 10号車（グリーン車）
（三島駅18：54発⇒新横浜駅19：29着）

上記公共交通機関を利用された方は体調に注意し、麻しんを疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻しんの疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

<都民の皆様へ>

○ 麻疹は感染力がきわめて強い感染症で、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現されると言われています。

○ 麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。
麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

（麻疹に関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡）



○ 麻疹を疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

(参考) 麻疹 (はしか) とは

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。

2015年にはWPR麻疹排除認証委員会より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。

世界でも、麻疹の排除 (elimination) に向けて、予防接種率の向上等の麻疹対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻疹ウイルス (measles virus) です。

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

発症した人が周囲に感染させる期間は、発疹が出現する4日前から発疹出現後4~5日くらいまでです。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、全て発症します。典型的には、約10~12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2~4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻疹含有ワクチン接種です。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回 (1回目: 1歳~2歳未満 2回目: 小学校入学前の1年間) 行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。

令和3年度接種率 第1期 (1歳児): 93.9%

第2期 (小学校就学前の1年間): 93.2%

(参考) 都内における麻疹患者発生状況 (確定例)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
東京都	23	124	2	0	0	2